

# 奥田玲子 学位論文審査要旨

主 査 萩 野 浩  
副主査 南 前 恵 子  
同 深 田 美 香

## 主論文

Changes resulting from reflection dialogues on nursing practice

(看護実践についての対話リフレクションによってもたらされる変化)

(著者：奥田玲子、深田美香)

平成26年 Yonago Acta medica 掲載予定

## 参考論文

1. 対話リフレクションによる臨床看護師の学びの構成要素と学びを促進するファシリテーターのかかわり

(著者：奥田玲子)

平成24年 国立病院看護研究学会誌 8巻 2頁～13頁

# 学 位 論 文 要 旨

## Changes resulting from reflection dialogues on nursing practice

(看護実践についての対話リフレクションによってもたらされる変化)

看護職は専門職性が求められる職業であり、熟達した看護実践に至るためには経験の質が重要とされている (Benner、1992)。リフレクションは自己との対話をとおして自分自身や自分の行為に意味づけをするプロセスであり、この繰り返しが経験から学ぶという思考を育てることから、最近では、リフレクションの概念を活用した教育が看護基礎教育や継続教育の場で多く活用されている。しかし、リフレクションを行なう場合、自分一人で表現できることや意識できることには限界があり、ファシリテーターの存在の重要性が指摘されている。医療現場の看護師を対象とした対話リフレクションに関する先行研究はまだ少なく、十分な検討がなされていない。本研究の目的は、対話リフレクションによってもたらされる「看護実践についての反省」の変化を自己リフレクションとの比較により明らかにすることである。

## 方 法

A市内の病床数200床前後の3施設に勤務する看護師14名を対象にした。患者とのかかわりの中で印象に残った一つの看護場面について、自らの看護実践を振り返る個人面接を2回行なった。1回目の面接では、Gibbsのリフレクティブ・サイクル(1988)を参考に作成したガイドラインに沿って、参加者が一人で振り返る自己リフレクションを行なった。2回目の面接では、自己リフレクションと同じ看護場面について、研究者が対話の相手となり、参加者ととも振り返る対話リフレクションを行った。面接データは、語りの内容をリフレクションのプロセス (Okuda、2012) で整理した後、Mezirow (1991) が示す「内容の振り返り」「プロセスの振り返り」「前提の振り返り」を手がかりに、語りの内容を深まりの観点から評価し、リフレクションの段階をⅠ～Ⅲで判断した。

データ分析の妥当性を高める努力として、自己リフレクションの逐語録は参加者に提示し、語りの内容に間違いがないか確認した。リフレクションの段階の解釈にあたっては、検討を繰り返しながらその都度、逐語録データに戻って妥当性を確認した。分析の過程では、指導教員のスーパーバイズを受けながら、共通の見解が得られるまで検討した。

## 結 果

患者との直接的なやりとりや、具体的なエピソードがない5名の事例は、分析の対象外とした。分析対象となった9名のうち、対話によってリフレクションの段階が「前提の振り返り」に深まったのは3名、「プロセスの振り返り」にとどまったのは4名、自己リフレクションですでに「前提の振り返り」に至ったのは2名であった。対話リフレクションでの研究者からの語りのフィードバックは、いずれの参加者にも、状況におけるその時の感情や思考を迫体験させ、詳しい語りが生成されるよう方向づけていた。また、看護の実践経験の見地からの焦点化した問いかけや別の観点からの示唆は、自分の行動パターンや行動の意図への気づきを促すだけでなく、その後の実践に関係する自己の課題の発見や自分の看護行為に対する意味の付加や拡充をもたらしていた。

## 考 察

対話リフレクションは、批判的な振り返りを発展させ、看護師としての自己のありようを見つめ直す機会となることが示唆された。看護の仕事に対する姿勢や考え方は、リフレクティブな思考の発展に関係しており、「前提の振り返り」まで深まった人は、看護師としての役割行動をとおして、自分がめざす看護に向けた自問を繰り返し、専門職者としての意識が高いことが推察された。「前提の振り返り」まで深まらなかった人は、その理由として、自分の中のわだかまりがある程度解消されていたこと、あるいは、自分の行為に影響した考えに価値が見いだせず模索状態が続いていたことが考えられた。看護の専門職性の育成という点では、学習は日常の関係性の中に組み込まれていることから、日々の業務の中で仕事に意味や意義を見出していくことが重要である。

## 結 論

対話リフレクションは、詳しい語りが生成されるよう方向づけ、そのときの行動に影響した気持ちや考えを思い起こし、その後の看護実践に関係する自己の課題の発見、自分の看護行為に対する意味の付加や拡充をもたらすことが確認された。